



MEMO★RANDOM

じんぼう・みか
法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)

長時間安心して打てるよう

世の中、なかなか上手く行かないものです。春先頃多くの人が口にしていた「夏に高温多湿の状態になれば、新型コロナウイルスの脅威も弱まるだろう」などといった見通しも虚しく、7月中盤から感染者が再び増え続けており、この号が発行される頃には「第2波」が宣言されていてもおかしくない状況となっていました。

私自身も、感染者数が落ち着いていた時期にはやめていた「毎日の検温」を再開したり、消毒等の徹底をさらに図るようにしていますが、一方で春先と大きく異なるのは「パチンコ叩き」に心を悩ませる機会が激減したことだといえます。というより、かつてのパチンコのポジションに「夜の街関連」がスライドしたような状況でしょうか。

そんな中、新型コロナ関連で興味深いアンケート記事を目にしました。国民全体のマスク着用が日常となった中、女性向けマーク商品の売れ筋に大きな変化があるというのです。記事によれば、マスク着用時の使用頻度が減ったのが「口紅」と「ファンデーション」で、

変わらないま
たは増えた
のは「パ
ウダー
(おしろ
い)」と
「アイブ
ロー」そし
て「化粧下地」
だそう。口紅やファンデーションは、マスクにくっつくのが嫌だから減った、下地やパウダーはリモート会議の時軽く肌色などを整えるためよく使う、といった声が多いとのことでした。

また一般的な消費に目を向けてみても、家庭で使う食材として「ホットケーキミックス」や「パスタ類」が売り切れ続出のニュースも記憶に新しいですし、逆に「酔い

止め薬」や「日焼け止め」といった、外出時に使う薬関係は売り上げ激減というのも、なるほどとうなづけます。私もマスクや消毒関連に使う金額が増えた一方、確かに化粧品は買わなくなったなあ……などと思い当たる節が多いですね。コロナの時代、まさに新しい社会生活に合わせたニーズや市場が出来つつあるといえるでしょう。

そうした今ならではの動向は、実は私自身のパチンコ志向にも大きな変化をもたらしています。いわゆる「コロナ前」は羽根物など遊パチタイプをゆっくり打ったりするのが好きでしたが、現時点では「なるべく長い時間ホールにいたくない」という考え方から、大当たりがセットになっているなど短時間勝負ができるタイプの中で面白そうな機種を打っています。ホールに長時間いたくない大きな理由は「台間を空けているホールが減って、ボードがあっても隣に人が来た場合落ち着かない」とことと「不特定多数が使用するトイレに行きたくない」からであり、残念ながらコロナが落ち着くまでは業界がオススメしている「遊タイム」搭載機種は、時間がかかるてしまう恐れがあるため積極的に打つことはないかもしれません。

7月下旬現在、一部識者からは今後無症状の罹患者が激増した場合、電車や建物内でウイルスを含んだ呼気の排出が増えて来るため、日常生活が危険と化す可能性もある……という見解が出されています。つまりまだまだ一寸先は闇であり、せっかくクラスター発生の可能性が低いことが浸透して来たパチンコにおいても、油断禁物なのは間違いないでしょう。それゆえ、一パチンコファンとしては感染防止ガイドラインが遵守されていない店舗について、もう一度引き締め直して頂きたいのです。長時間滞在しても安心な店舗が増え、ゆっくりと遊技が楽しめるようになるのを願っています。

